

第七
大博士
聖徒伝 152

「神が赦し
得ない
罪はない」

列王記 II 21章 歴代誌 II 33章 マナセの罪と回心

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. マナセの罪 列 II 21:1~16

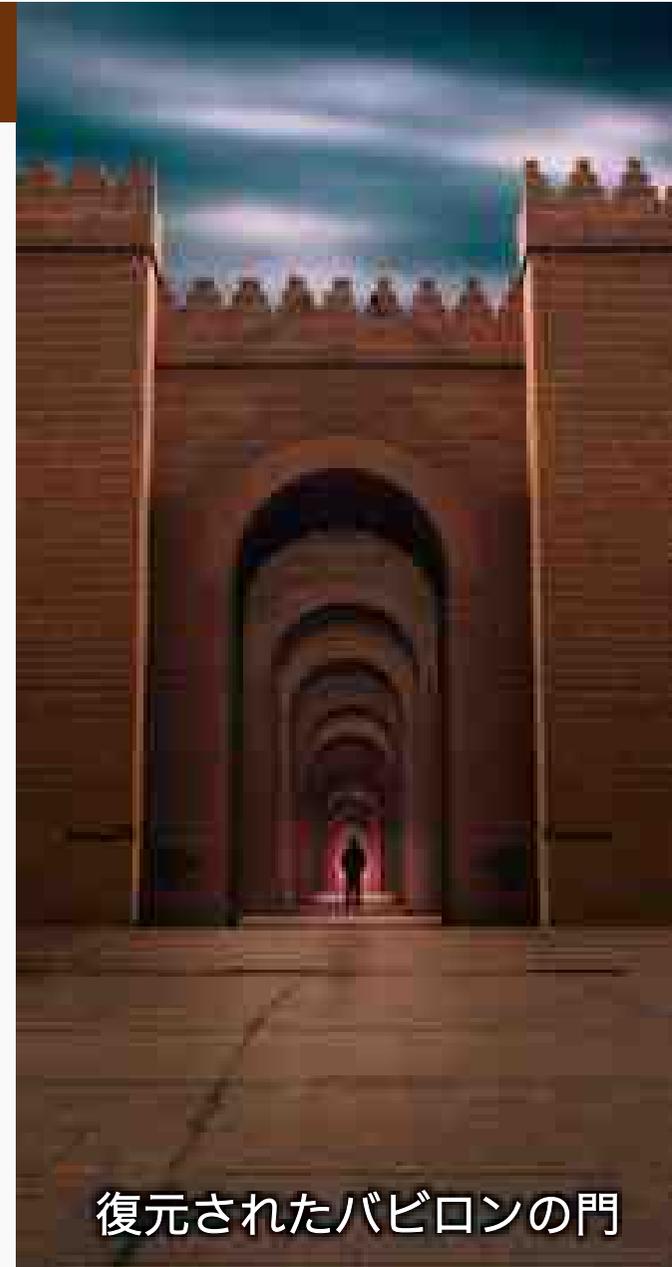
II. マナセの回心 歴 II 33:10~18

III. アモンの罪 列 II 21:19~26

IV. まとめと適用

預言者の戦いを私の戦いに

預言者の喜びを私の喜びにしよう



復元されたバビロンの門



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

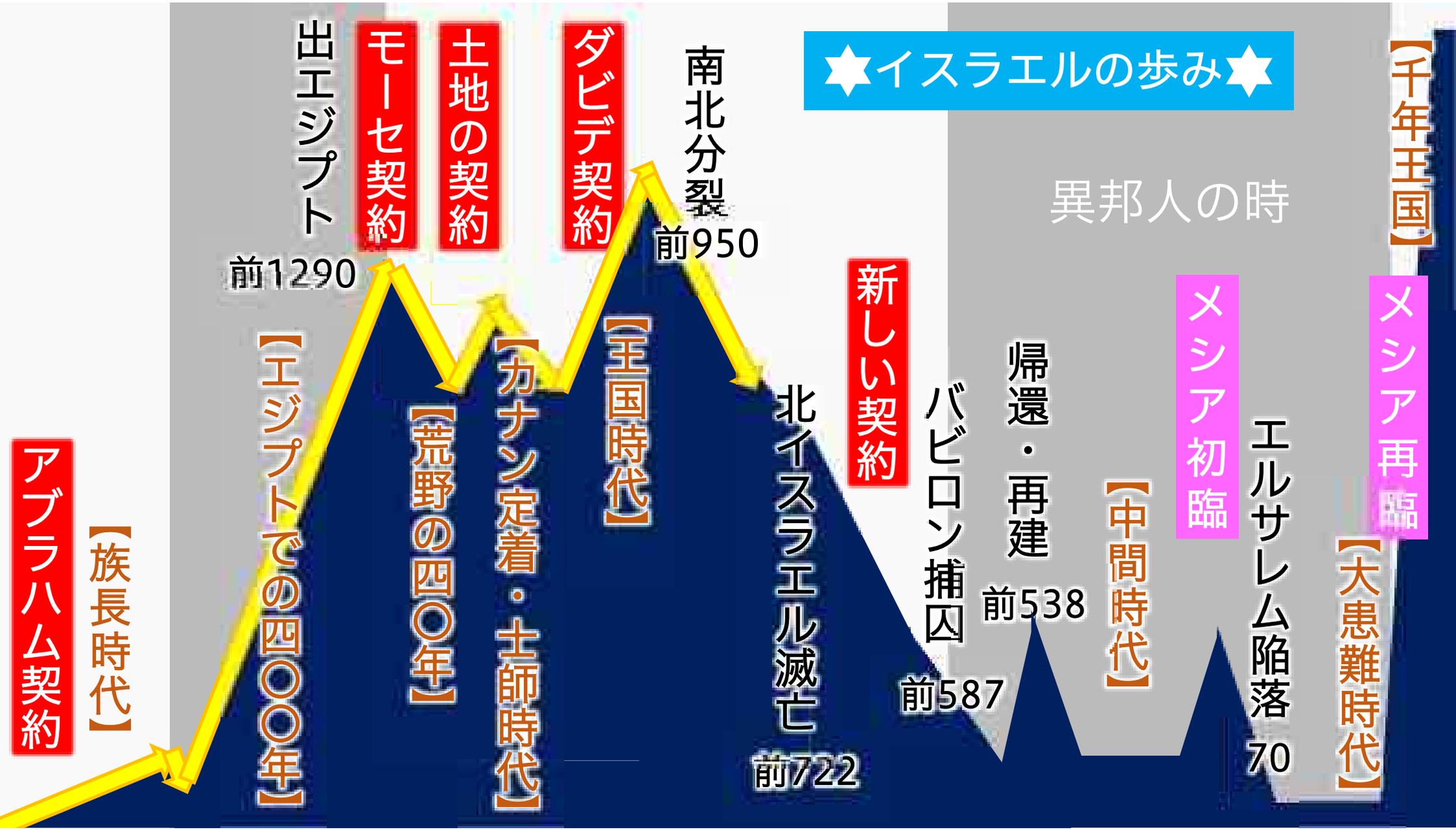
神の約束こそが
その時代の守り

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂

前950

ダビデ契約

【王国時代】

カナン定着・士師時代

【荒野の四〇年】

モーセ契約

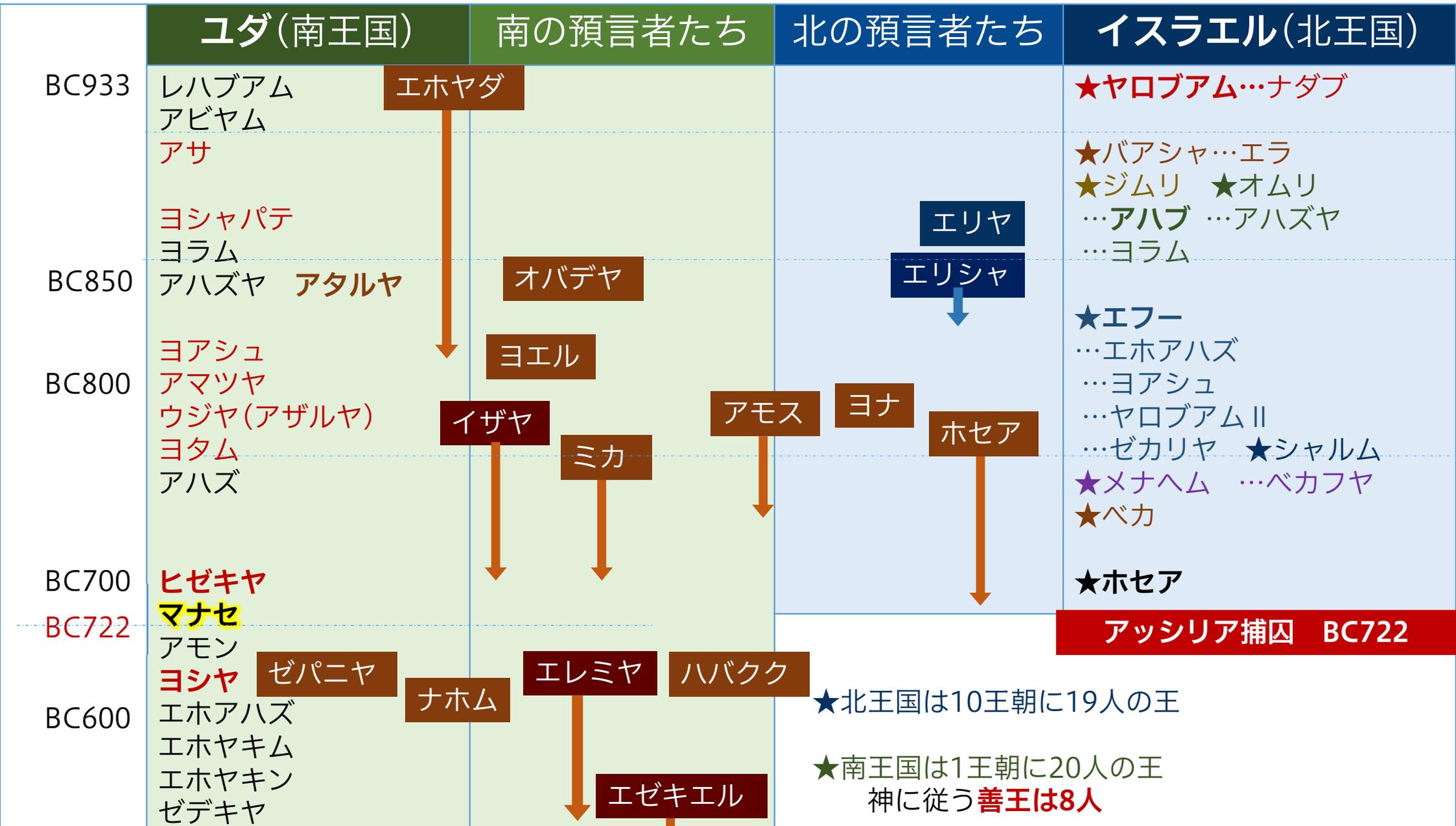
エジプトでの四〇〇年

前1290

出エジプト

【族長時代】

アブラハム契約



北王国
イスラエル

ホセア

ホセア

9年

アッシリア捕囚②

BC722年

南王国
ユダ

ヒゼキヤ ♡

29年

イザヤ

ミカ

マナセ ☠

55年

アモン ☠
2年

ヨシヤ

31年

エレミヤ

ハバクク

ゼパニヤ

預言者の空白時代



I. マナセの罪

歴代誌第二21章1～16節

列王記 マナセ王の即位 列二21:1

マナセ*は十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。彼の母の名はヘフツィ・バハ*といった。

*“(苦難を)忘れさせる” …ヨセフの長子と同名。

→北王国の滅亡後の誕生・命名。

ヒゼキヤが奇跡的に延命した後の誕生。

あの癒やしがなかったら誕生してない。

ヒゼキヤの涙は、後継者がいないから？

■ヒゼキヤは北王国のマナセ族の名を子につけた。

*“私の喜びは彼女の内にある”



どれほど期待され
愛されていたか

列王記 アハブの罪の再現 列二21:2～3

彼は、【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民*の忌み嫌うべき慣わしをまねて、【主】の目に悪であることを行なった。彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を築き直し、イスラエルの王アハブがしたように、バアルのためにいくつもの祭壇を築き、アシェラ像を造り、天の万象を拝んでこれに仕えた。

*カナンの民

■ 父ヒゼキヤの功績は破壊し尽くされ、悪王アハブの罪が再現された。



列王記 汚された主の御名 列二21:4

こうして彼は、【主】がかつて「エルサレムにわたしの名を置く*」と言われた【主】の宮に、いくつもの祭壇を築いた。

*“名を置く場”→神殿。申命記12:5、1列8:16

- 主の名を置く都は、モーセに示されており、ダビデによってエルサレムは勝ちとられ、ソロモンによって神殿は建設された。
- 主の宮に偶像の祭壇を築くことは、神の民と、ダビデの系譜を根底から破壊する大罪。



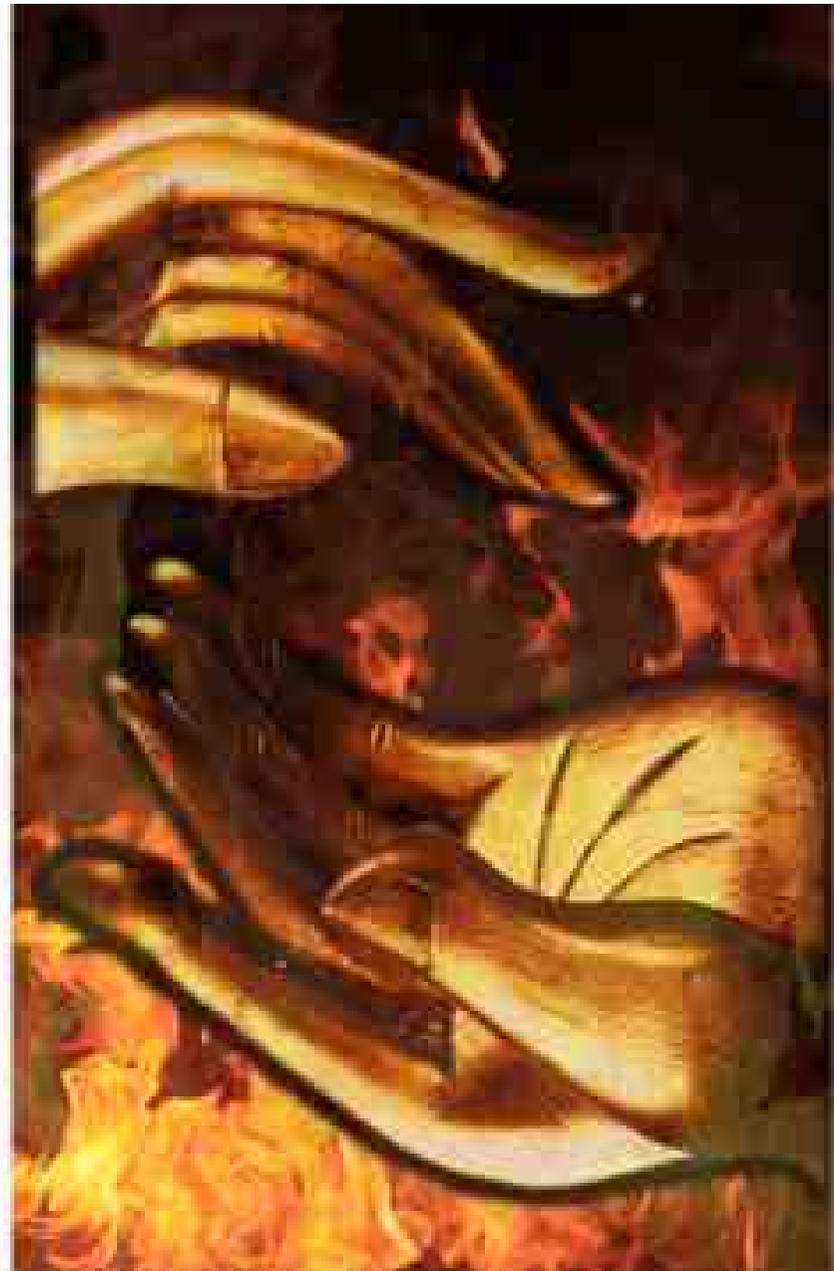
歴代誌 重ねられる悪 歴二33:5~6

【主】の宮の二つの庭には、天の万象のために祭壇を築いた。

この彼は、ベン・ヒノムの谷*で自分の子どもたちに火の中を通らせ、卜占をし、まじないをし、呪術を行い、霊媒や口寄せをし、【主】の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。

*エルサレムの南西の谷

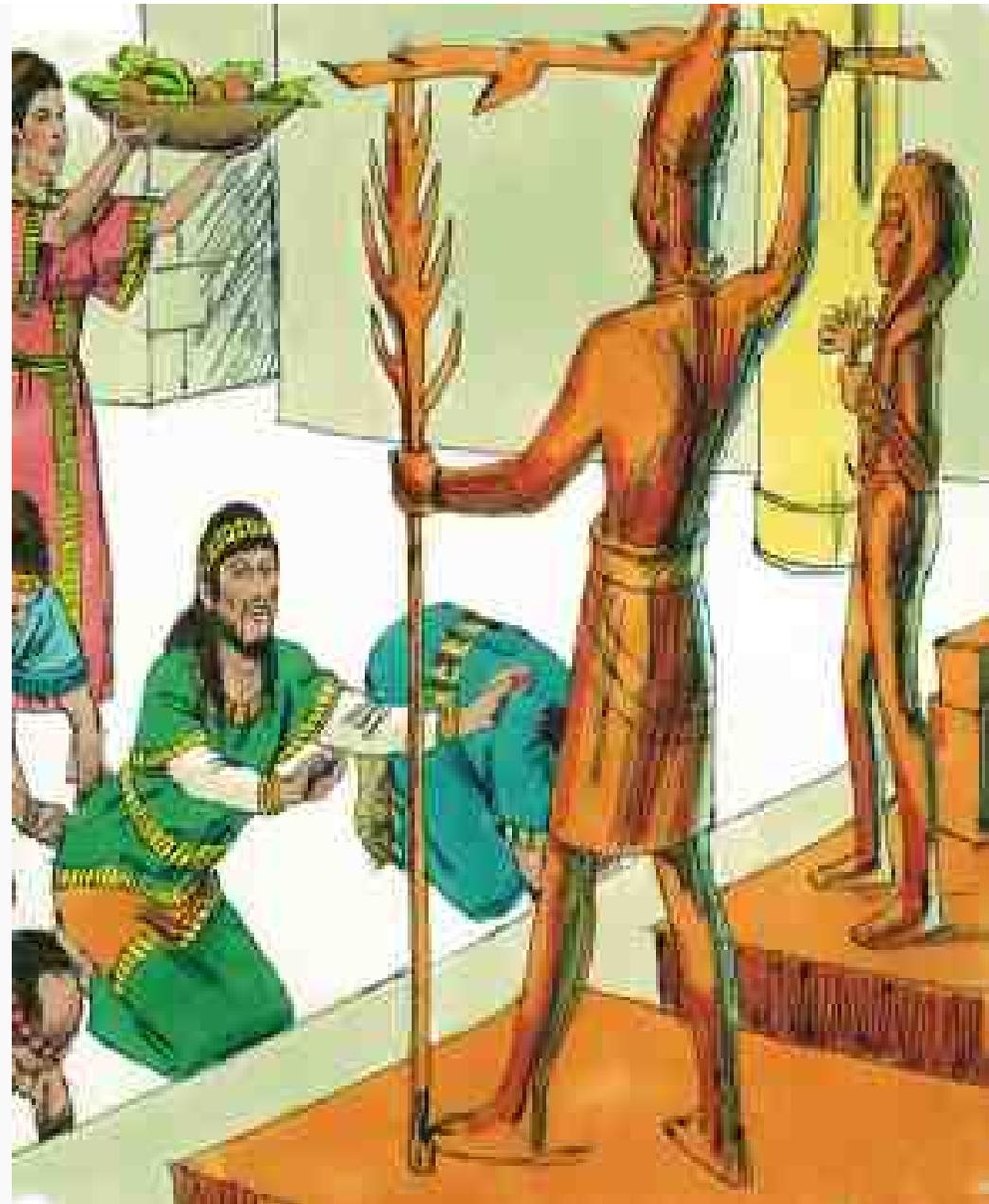
➡後のゲヘナ(火の池・地獄)の語源。



列王記 汚された神殿 列二21:7

彼はまた、自分が造ったアシェラの彫像*を宮に安置した。【主】はかつてこの宮について、ダビデとその子ソロモンに言われた。「わたしは、この宮に、そしてわたしがイスラエルの全部族の中から選んだエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。」

*バアル(男神)と対になる女神。
神殿娼婦・男娼など性的儀式も



列王記 踏みにじられた律法 列二21:8~9

「もし彼らが、わたしの命じたすべてのこと、わたしのしもべモーセが彼らに命じたすべての律法を守り行いさえするなら、わたしはもう二度と、彼らの先祖たちに与えた地からイスラエルの足を迷い出させない*。」

しかし、彼らはこれに聞き従わなかった。マナセは彼らを迷わせて、【主】がイスラエルの子らの前で根絶やしにされた異邦の民よりも、さらに悪いことを行わせた。

*律法で保障された守りを自ら放棄したマナセ。



列王記 預言 列二21:10~11

【主】は、そのしもべである預言者たち*によって、次のように告げられた。

「ユダの王マナセは、これらの忌み嫌うべきことを行い、実に彼以前にいたアモリ人が行ったすべてのことよりもさらに悪いことを行い、その偶像でユダにまで罪を犯させた*。」

*預言書を残した預言者はいなかったが。

この時代にも預言者たちは遣わされていた。

*王の罪は民の罪でもある。その責任は重い。



列王記 裁きの宣告 列二21:12~13

それゆえ、イスラエルの神、【主】はこう言われる。見よ、わたしはエルサレムとユダにわざわいをもたらす。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る*。

わたしは、サマリアに使った測り縄と、アハブの家に使った重りをエルサレムの上に伸ばし、人が皿をめぐい、それをめぐって伏せるように、わたしはエルサレムをめぐい去る。

*聞くに堪えない厳しい神の宣告を表現。

■エルサレムも北王国、アハブと同じ運命を。



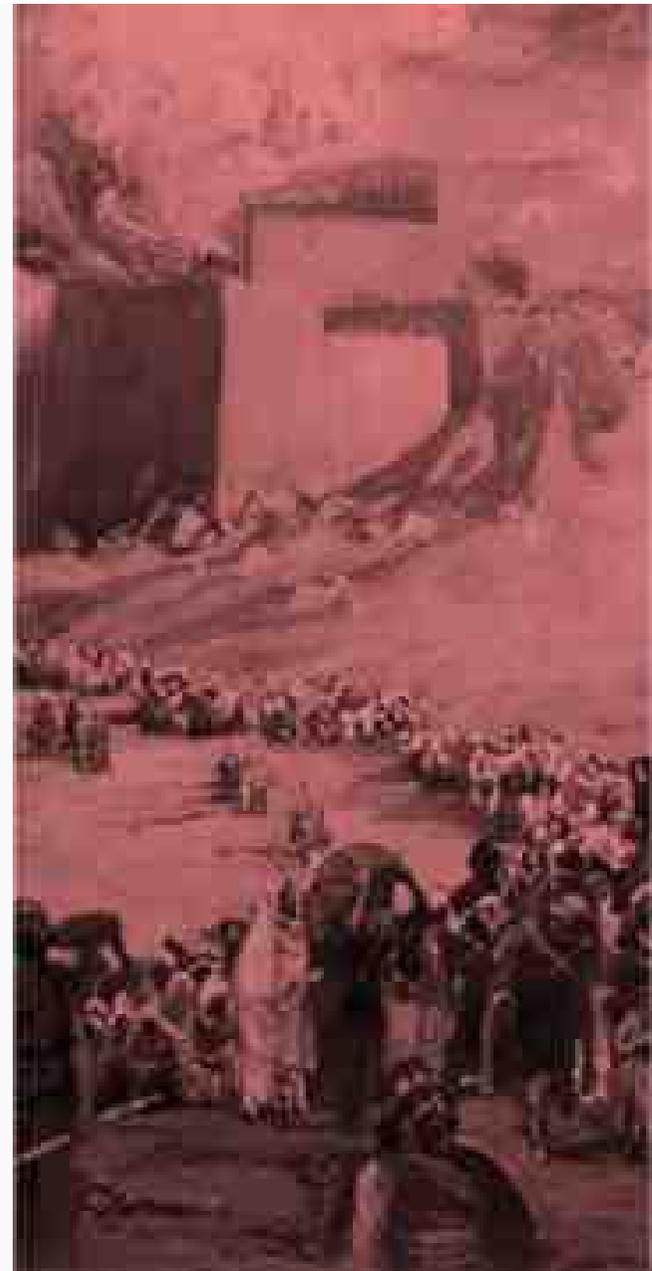
測り縄・重り 下げ振り

列王記 蓄積された罪の結果 列二21:14~15

わたしは、わたしのゆずりの民の残りの者を捨て去り、彼らを敵の手に渡す。彼らはそのすべての敵の餌食となって奪い取られる。

それは、彼らの先祖たちがエジプトを出た日から今日まで*、わたしの目に悪であることを行って、わたしの怒りを引き起こしたからである。」

*マナセの罪は、歴代のイスラエルの罪に加えられた最後の一滴のようなものか。



列王記 咎なき者の血 列二21:16

マナセは、ユダに罪を犯させて、【主】の目に悪であることを行わせた罪だけでなく、咎のない者の血まで多量に流した*が、それはエルサレムの隅々に満ちるほどであった。

*多くの信仰者たちが迫害され、殺された。

預言者たちも、大勢の者が殺されただろう。

イザヤがのこぎりで斬り殺されたという伝承も。
(ヘブル11:37)

→マナセ時代の預言書の空白の原因か？



II. マナセの回心

歴代誌第二33章10～18節

一部復元されたバビロンの都

歴代誌 虜囚のマナセ 歴二33:10~11

【主】はマナセとその民に語られたが、彼らは耳を傾けなかった。

そこで【主】は、アッシリアの王の配下にある軍の長たちを彼らのところに連れて来られた。彼らはマナセを鉤で捕らえ、青銅の足かせにつないで、バビロンへ引いて行った。





アッシリア

ニネベ

ダマスコ

サマリア

エルサレム

バビロン

バビロンへの強制移住政策だったのだろう

歴代誌 マナセの回心 歴二33:12~13

しかし、彼は苦しみの中で彼の神、【主】に嘆願し、父祖の神の前に大いにへりくだり、神に祈ったので、神は彼の願いを聞き入れ、その切なる求めを聞いて、彼をエルサレムの彼の王国に戻された。こうしてマナセは、【主】こそ神であることを知った*。

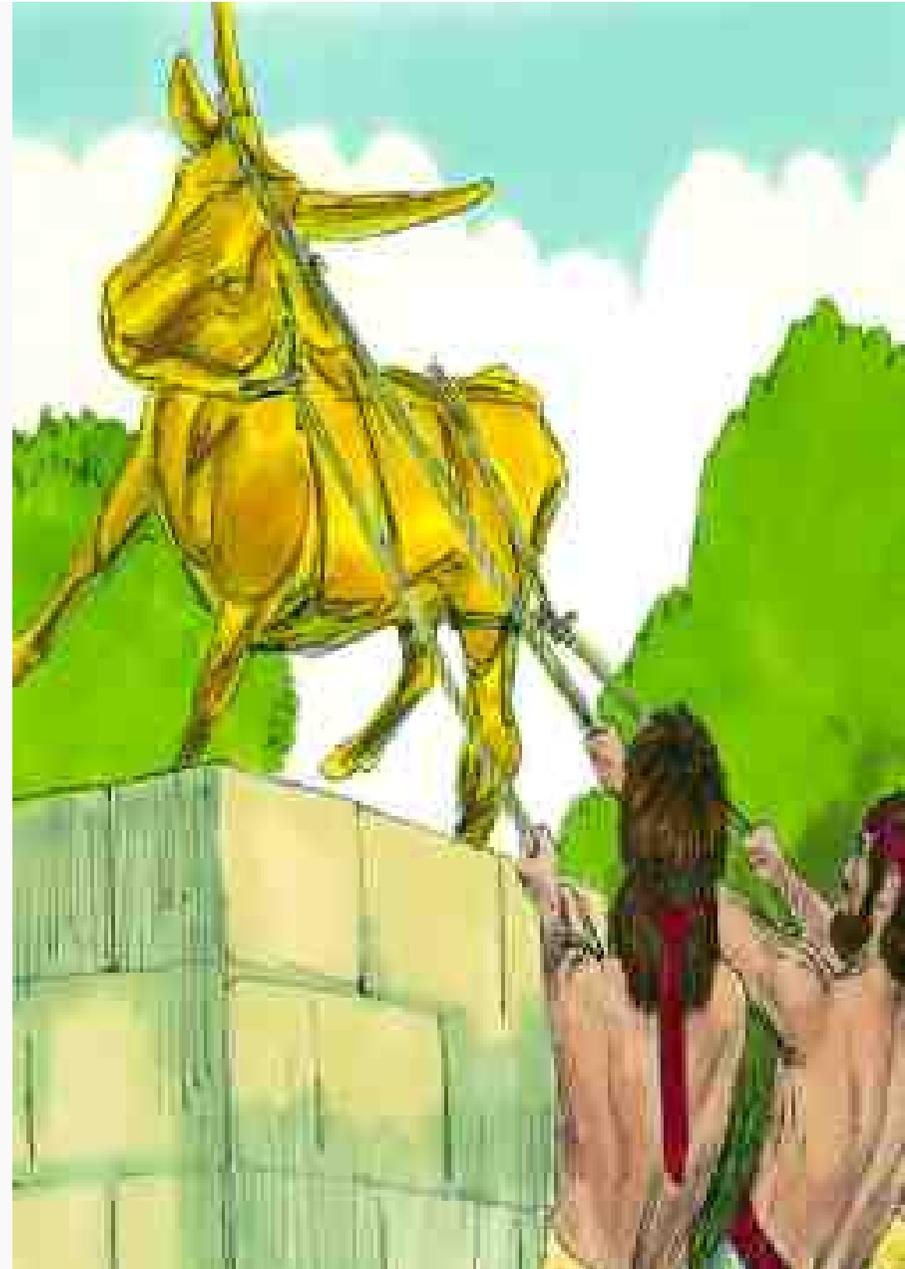
*罪赦され、神との断絶が修復された。



歴代誌 都の復興 歴二33:14~15

その後、彼はダビデの町の外側、ギホンの西側の谷に城壁を築いた。それは魚の門に至り、オフェルを囲むもので、非常に高く築かれた。また、彼はすべてのユダの城壁のある町々に軍の高官を置いた。

また彼は、【主】の宮から異国の神々と偶像、および、【主】の宮のある山とエルサレムに自分が築いたすべての祭壇を取り除き、町の外に投げ捨てた。



歴代誌 主の祭壇 歴二33:16~17

そして、【主】の祭壇を築き直し、その上で交わりのいけにえと感謝のいけにえを献げ、ユダに命じて、イスラエルの神、【主】に仕えさせた。

しかし民は、自分たちの神、【主】に対してではあったが、なお高き所でいけにえを献げていた。



歴代誌 マナセの記録 歴二33:18~19

マナセについてのその他の事柄、彼が神にささげた祈り、イスラエルの神、【主】の御名によって彼に語った先見者たちのことばは、まさしく『イスラエルの王の書』にある。

彼の祈り、その願いが聞き入れられたこと、および、彼がへりくだる前に犯したその罪、その不信の罪、高き所を築き、アシェラ像と刻んだ像を立てた場所については、『ホザイの働き*』にまさしく記されている。

*現存していない



列王記 マナセの死 列二21:17~18

マナセについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が犯した罪、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

マナセは先祖とともに眠りにつき、その家の園、ウザの園*に葬られた。彼の子アモンが代わって王となった。

*ウジヤ王の墓園か？

■南王国最盛期の善王ウジヤは、晩年に罪を犯し、ツアラアトに冒されて死に、「王たちの墓地の野」に葬られた。





Ⅲ. アモンの生涯

列王記第二21章19～26節

オリーブ山からダビデの町を臨む

列王記 アモン王の即位 列二21:19

アモン*は二十二歳で王となり、エルサレムで二年間、王であった。彼の母の名はメシュレメテ*といい、ヨテバ出身のハルツ*の娘であった。

*“名匠” …秀でた技があったのか？！

*“友” …こののみ。

*“鋭い、尖った”



歴代誌 アモンの罪 歴二33:22~23

彼はその父マナセが行ったように、【主】の目に悪であることを行なった。アモンはその父マナセが造ったすべての刻んだ像にいけにえを献げ、これに仕えた。

しかし、その父マナセがへりくだったようには、【主】の前にへりくだらず*、かえって、このアモンは罪過を増し加えた。

*主が、アモンにも悔い改めのチャンスを与えられたにも関わらず。



列王記 アモンの死 列二21:21～24

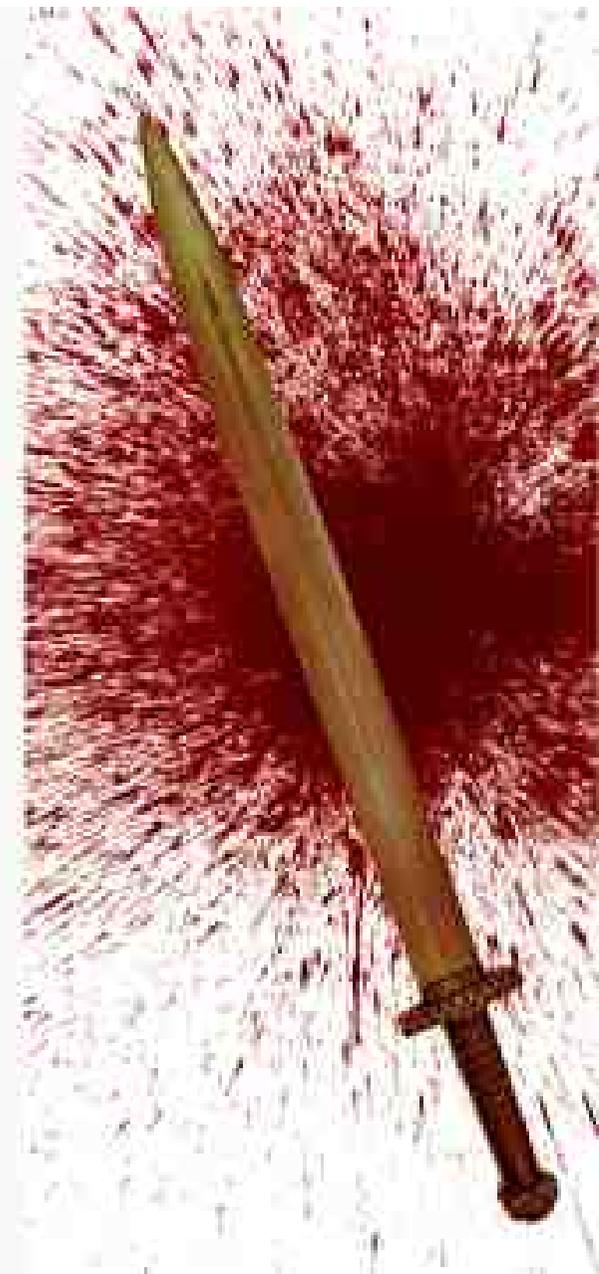
彼は父の歩んだすべての道に歩み、父が仕えた偶像に仕え、それらを拝み、彼の父祖の神、【主】を捨てて、【主】の道に歩もうとはしなかった。

アモンの家来たちは彼に謀反を起こし、その宮殿の中で王を殺した。

しかし、民衆はアモン王に謀反を起こした者をみな打ち殺した。民衆はアモンの子ヨシヤ*を代わりに王とした。

*“主が癒やされた者” …8歳で即位。

最後にして最大の宗教改革を成し遂げる。



列王記 アモンの埋葬 列二21:25～26

アモンが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

人々は彼をウザの園*にある彼の墓に葬った。
彼の子ヨシヤが代わって王となった

*父マナセと同じ墓園に葬られた。





Ⅲ. まとめと適用

預言者の戦いを私の戦いに
預言者の喜びを私の喜びにしよう

バビロンの遺跡

マナセの罪の本質

■ マナセは、律法を破り、神に背き、主が置かれた都エルサレムと神殿を偶像で汚してしまった。

■ 偶像礼拝の本質は、人の思い、感情が第一とされること。

南王国最長の55年を統治したマナセ。人間の王としては優秀だった。

■ 神の視点と人間の視点は、余りに異なり、時に真逆だ。

信仰者に求められるのは、徹底して神に従うこと。

■ 聖書は明確に、なすべきことを示し、してはならない罪を禁じる。

神の意図を正しく理解し、従うべきことに徹底して従って行こう。

マナセの犯罪・流した預言者の血

■ マナセの最悪の罪が、「咎のない者の血まで多量に流した」こと。
残された信仰者たちを迫害し、預言者たちを殺害した。

➔ マナセの時代に預言書を残した預言者はいなかった(空白期)

■ 主イエスの嘆きが心に響く。

「エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。マタイ 23:37」

■ 懲らしめの末に悔い改めたマナセを、どんなに神は喜ばれたか。
それは、召された預言者たちの喜びともなったに違いない。

マナセの悔い改め

■ マナセがアッシリアに連行されたのは、バビロンだった。

悔い改めたマナセを主は憐れみ、エルサレムの都に返された。

➔ マナセの姿が、来たるべきバビロン捕囚と帰還に重なる。

■ 最悪の王にすら、救いの機会は与えられていた。

悔い改めて主に信頼するなら、主が赦されない罪はない。

➔ ましてや主イエスの十字架の血潮できよめられない罪はない。

■ 懲らしめの末に悔い改めたマナセを、どんなに神は喜ばれたか。

それは、天に召された預言者たちの喜びにもなったに違いない。

預言者の喜びを私たち自身の喜びとしよう。それが力になる。

ヘブル人への手紙11章33～12章2節

ヘブル人への手紙11章33～35節

彼らは信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、

火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を敗走させました。

女たちは、死んだ身内の者たちをよみがえらせていただきました。また、ほかの人たちは、もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。

ヘブル人への手紙11章36～38節

また、ほかの人たちは嘲られ、むちで打たれ、
さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、

また、石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、
羊ややぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待されました。

この世は彼らにふさわしくありませんでした。
彼らは荒野、山、洞穴、地の穴をさまよいました。

ヘブル人への手紙11章39～40節

これらの人たちはみな、その信仰によって称賛されましたが、**約束されたもの**を手に入れることはありませんでした。

神は私たちのために、**もっとすぐれたもの**を用意しておられたので、私たちが抜きにして、彼らが完全な者とされることはなかったのです。

ヘブル人への手紙12章1～2節

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

★ 史上最大の靈的戦いを戦い通す、そのために ★

■ 教会時代の今を生きる私たちには、預言者にも知り得なかった、完全な福音が知らされている。この恵みを喜び、味わい尽くそう。

■ 大患難に向かう時代、教会もますます混沌を極めていくだろう、大小関係なくどんな地域教会も、無関係ではられない戦いがある。

■ そのただ中で誰もが問われるのは、自分自身の信仰だ。ますます必死に、聖書だけ、神の約束だけにしがみついでいこう。

➔ 携拳の瞬間まで、主が福音宣教のチャンスを与えられ続ける!!

■ 世にあっては、嫌われ者でも仕方ない。人の情に流されるな。神の義と愛に信頼し、聖書の真理に堅く立ち、福音を宣言しよう。

マタイ福音書 5章1節

「喜びなさい。大いに喜びなさい。
天においてあなたがたの報いは大きいのですから。

あなたがたより前にいた預言者たちを、
人々は 同じように迫害したのです。」

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
^{つみ}あがな ^{じゅうじか}し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

^{はか} ^{ほうむ}

②墓に葬られ、

^{みつかめ} ^{ふっかつ}

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

^{よげんしゃ} ^{しゅ} ^{しんらい} ^{つづ}
預言者たちのように、主だけを信頼し続けることができますように。

^{ひと} ^{おも} ^{じぶん} ^{かんじょう} ^{しゅ} ^{つか}
人の思いでも、自分の感情でもなく、ただ主に仕えさせてください。

^{つみ} ^{おも} ^{もの} ^{しゅ} ^{あわ}
どれほど罪の重い者でも、主が憐れんでくださっています。

^{めぐ} ^た ^{ふくいん} ^{せんげん} ^{もの} ^{つか}
はかりしれない恵みに立ち、福音を宣言する者として遣わしてください。

^{しゅ} ^な ^{いの}
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」